

荒尾競馬事業の経営改善へ向けた取組みについて

平成21年10月に、荒尾競馬あり方検討会が策定した「荒尾競馬の活性化、経営改善及び今後のあり方に関する提言」に基づき、主な取組項目毎に平成21年度と平成22年度の実施状況を取りまとめました。また、同提言による取組以外にも、荒尾競馬組合が独自に取り組んだ内容について、「4. その他の取組み」として記載しています。

1. 歳入増対策

◆ 馬頭数の確保

取組目標	冬期休催場から競走馬を招聘するなど、馬頭数の確保に努める。
H21 年度取組内容	冬季に休催している北海道競馬並びに岩手県競馬所属の騎手及び競走馬を招聘し、「ウィンターシリーズ」と称して番組展開を行いました。(北海道25頭、岩手25頭) この冬季交流レース(北海道・岩手)は、相互発売の増加等により売上の増額には繋がったと見込まれますが、馬輸送費や広報費については、地方競馬全国協会の活性化補助金や荒尾市からの補助金を活用して実施したものであり、経費面から前年度の収支が保たれているか疑問だったため、平成20年度よりも縮小して実施しました。
H22 年度取組内容	平成21年度の結果、ある程度の収支に寄与したと評価されますが、平成22年度からは、馬輸送費の半額程度が自己負担となるおそれがあること、他場所所属場への出走手当等の増加を招くこと、競馬を行うに当たって公正競馬確保の観点から問題点が生じていたことなどから、平成22年度は事業実施を見送りました。

◆ 本場入場者数の増加

取組目標	土・日曜日開催の拡充や、バックヤードツアー等ファンイベントの開催などにより、本場入場者数の増加を図る。
H21 年度取組内容	九州競馬発足及び九州トータリゼータ立上げの際の経緯から、土日開催の解釈等に佐賀競馬との間で大きな相違点がある中で、佐賀競馬との交渉により、最低限の土日開催を確保しました。また、バックヤードツアーについては、開催中は随時行うこととしており、JR九州ウォーキングの際には、厩舎関係者協力の下、厩舎を巡るツアーをオプションとして実施しました。
H22 年度取組内容	平成21年度同様、土日開催、バックヤードツアー、JR九州ウォーキングに関する取組みを行いました。なお、土日開催については、全体売上の実績等を勘案した結果、平成23年度開催から基本日程を平日開催に特化する方針とし、年間3日程度をファン感謝デーとして確保するよう予定しています。

◆ 本場平均購買額の増加

取組目標	出走回数増による多頭数レースの開催や、他場との交流競馬の充実などにより、本場平均購買額の増加を図る。
H21 年度取組内容	まずは集客増を図るため、各種イベントの開催通知やはずれ馬券を活用した抽選会を行ったほか、荒尾市役所、あらおシティモール、市内ホテル等に随時ポスター掲示を行いました。なお、厩舎関係者(調教師・騎手・厩務員)の協力により、宣伝のための街頭キャンペーンを行いました。なお、多頭数レースの開催等については、賞典奨励費の削減を行っていたため、困難な状況でした。
H22 年度取組内容	集客向上のため、市内イベント時のチラシ配布等を行い、広報を強化しました。また、馬頭数は減少傾向にあるため、平成22年度第1四半期までは1レースあたりの頭数を確保して1開催日に10レース実施していましたが、売上総体として減少したため、年度途中から、可能な限り11レースを開催して総売上の確保を行っています。

◆ 場間場外取扱高の拡充

取組目標	南関東地区や東海地区など相互利用の拡充や、リレーナイターの拡充などにより場間場外取扱高の拡充を図る。
H21 年度取組内容	荒尾本場開催以外に、収益の大きな一助として受託の場外日数(リレーナイターを含む)を大幅に増加させました。 平成20年度 全レース発売 242日、ナイター及びリレーナイター 69日 平成21年度 全レース発売 270日、リレーナイター95日
H22 年度取組内容	平成21年度に加え、さらにリレーナイター等を中心に場外日数を増加しました。 平成22年度 全レース発売 282日、リレーナイター99日 しかし、近隣町への場外舟券発売所の影響が大きく表れ、前年度比にして大幅な減収を余儀なくされる見込みです。それでも、今後においてもなお、発売協力金は売上の大きな部分を占めており、荒尾競馬開催時の相互発売の受託についても関連があることから、収支を見ながら可能な限り受託していく必要があります。

◆ ネット販売の拡充

取組目標	アフター5ニーズに対応する発走時間の調整や、一般パソコンユーザーを狙ったバナー広告の実施などによりネット販売の拡充を図る。
H21 年度取組内容	本場発売や場外発売の売上が減少していく中で、ネット発売は堅調に推移しています。また、第4四半期においては、ネット発売のみに限定してキャリーオーバーが可能な新規馬券の発売(5重勝馬投票券)を行ったほか、地方競馬全国協会の補助金を活用して、ネットでの馬券購入者に対し販売促進キャンペーン事業を展開し、ポイント還元やプレゼントを行って販売促進に努めました。
H22 年度取組内容	販売促進などの多様な取り組みの結果、大幅な伸びを見せています。また、佐賀競馬との馬交流の取り掛かりのためのスーパースプリント調査事業、携帯サイトでの会員登録によるサポータークラブ事業を活用して、畜産物を使用したプレゼントなどを通じて販売促進に努めています。但し、ネット発売が好調であるものの、総売上高が減少している中で、ネット発売の経費が著しく増大しており、この収益構造の変化が、全体としての収益率の悪化を招いています。

◆ 入場料の見直し

取組目標	午後3時から無料としている入場料の見直しなどを行う。
H21 年度取組内容	平成20年度から特別観覧席を自由席化して、ファミリー席の設置や女性の観覧席券の無料化などの取り組みを行ってきました。平成21年度には特別観覧席内に女性専用席を設け、女性やファミリー層に入りやすい施設づくりを行っています。 また、入場についても、入場料収入との兼ね合いがありますが、馬券購入の促進を優先させるため、大きなレース等の開催や各種イベントの際に無料招待券を発行し、市民に開かれた競馬場を目指しています。
H22 年度取組内容	平成21年度同様、特別観覧席の女性優待等を行っています。また、日本レーシングサービスの助成もあり、入場回数に応じたスタンプ事業を開始しました。さらに、ラジオ広報や重賞レースのポスターを駅に掲示したほか、開催前日と当日に広報車を周回、サポータークラブのファン向けに入場無料のクーポン券を送付しています。しかしながら、入場者数の減少により、常時千人の入場者であった前年度と比べて、800人台の入場者に留まる開催日も多く見られます。

2. 経費節減策

◆ 競馬事業費の見直し

取組目標	包括委託等の検証や見直しを行う。
H21 年度取組内容	平成21年度の包括委託は2社が請け負っていましたが、包括委託費の減額交渉を行うとともに、発行窓口数の減少による合理化や、各所での人員体制の見直しを行いました。これらを含めた減額交渉の成果により、約 6,000 万円の削減効果が得られました。
H22 年度取組内容	平成22年度は、従来からの包括委託業者のほか、映像部門の業者にも直接交渉にあたることとして、更なる合理化と減額依頼を行い、約 4,000 万円の包括委託費の減額で契約することが出来ました。しかし、第1四半期の収支状況が想定外に落ち込んだため、年度途中においても更なる減額交渉に臨み、約 3,000 万円を更に減額することが出来る見込みです。但し、次年度以降の契約については、包括委託の受託業者から減額前の金額に戻していただきたいとの申し出がなされており、今後の減額は困難となることが予想されます。

3. 市民のための競馬場づくり

◆ おもてなし(ホスピタリティ)の向上

取組目標	接客対応の改善や分煙化の徹底などによりおもてなしの向上を図る。
H21 年度取組内容	開催日には、入場口において来場者への挨拶の励行、お出迎えを行いました。また、開催日を分かりやすくするため、開催日告知を場内に貼りだしました。さらに、荒尾市の補助金を活用して、危険な箇所の修繕と併せて美化補修を行いました。
H22 年度取組内容	入りやすさを向上させるため、これまで閉鎖していた広い門を開放して、入場口の変更を行いました。また、喫煙場所の指定を行って分煙機能を強化し、新たに JT からいただいた灰皿を活用してマナー向上に努めています。

◆ アンケート等によるファンニーズの把握

取組目標	アンケートやホームページ等によるファンの意見聴取などを行う。
H21 年度取組内容	ファンの方々からは個別に様々なご意見をいただいているところですが、競馬組合の人員体制などに鑑み、独自のアンケート調査の実施には至っていません。
H22 年度取組内容	直接的なファンの意見聴取は未実施ですが、畜産近代化リース協会の補助金を活用し、サポータークラブを立上げ、今後の運営の礎とするためにも、地元ファンを中心に携帯サイトで登録して組織化を行っています。また、その登録者の中から参加者を募り、騎手との交流イベントを実施したり、レディースジョッキー前夜祭等には優先的に参加出来る枠を設け、意見交換出来る場を設定しています。

◆ 地域との連携強化

取組目標	イベント事業の拡充やフリーマーケットなどイベントへの開放などにより、地域との連携強化を図る。
H21 年度取組内容	あらお荒炎祭の誘致に注力し、競馬場での開催を行いました。また、開催日にフリーマーケットを同時開催したり、校区元気づくりの一環として凧揚げへの場所提供を行いました。加えて、飲食店組合や建設業組合の全レースの冠協賛レース実施等を行い、近隣を含む学生の社会科見学・実地研修等の受け入れを行っています。

H22 年度取組内容	インターネット会社とソフトバンクホークスのご協力により、ソフトバンクホークスキャラクターの場内出演が実現しました。また、昨年同様あらお荒炎祭に開放し、チラシ・うちわ配布と併せて乗馬体験を行いました。 なお、場内に展示ブースを設置して写真展等の開催を行い、あらおシティモールのご協力により、同写真展と騎手服等の展示を行いました。
------------	--

4. その他の取り組み

◆ スーパースプリント事業他交流レースの実施

H21 年度取組内容	荒尾競馬において実施され、その後シリーズ化されました、女性ジョッキーたちとのレースである「レディースジョッキーシリーズ(LJS)」を継続実施しました。また、岩手(みちのく:M)と佐賀・荒尾(九州:K)との繋がりを活かした「M&Kジョッキーシリーズ」を開催しました。
H22 年度取組内容	佐賀競馬との人馬交流の足掛かりとして、地方競馬全国協会の補助の下、スーパースプリント(SSP)調査事業を1開催あたり1ないし2レース実施しています。また、LJSやM&Kジョッキーシリーズも開催しました。

◆ 場外運営の見直し

H21 年度取組内容	鹿児島県曾於郡大崎町の場外馬券場「ニューウェイブ大崎」に関する運営経費等の見直しを行ったほか、大崎町への協力金の減額について了承を得ました。 しかし、運営について監督官庁から指摘を受け、抜本的に見直すべきとされました。荒尾競馬の平成21年度収支における赤字額の内、約半分を占めていることから、鋭意検討を行うこととなりました。
H22 年度取組内容	平成22年度から、次の事項の改善を行いました。 ・現金輸送を最小限にして、一定程度保管できるよう協議して実行しました。 ・通信回線については、安価なものを使用しました。 ・警備体制の見直しを行い、運営体制の見直しを検討して打合せを行いました。

◆ 出走手当の削減

H22 年度取組内容	収支改善策の一つとして、平成22年第7回開催(8月21日)から、レース出走毎に馬主に対して支払われる出走手当の一律15,000円減額を行いました。 ・2歳及び3歳の格付馬 60,000円 → 45,000円 ・古馬格付 50,000円 → 35,000円
------------	---

◆ 地方公営企業法における財務規程の適用

H22 年度取組内容	経営内容の的確な把握と透明化のため、これまでの官庁会計から、地方公営企業法の財務規程を適用して企業会計の導入を図りました。平成23年2月1日に適用が認可され、平成22年度の2月・3月予算を地方公営企業法に基づくものとして整備しました。
------------	---